

請 願 第 2 号	令 2. 8. 26 受 理
<p>(件 名)</p> <p>国の責任による「20人学級」を展望した少人数学級の前進を求める意見書提出について (紹介議員)</p> <p>大園たつや、園山えり、のぐち英一郎、小川みさ子</p> <p>(提出者)</p> <p>鹿児島市下荒田3丁目10-8 新日本婦人の会鹿児島支部 支部長 大野 登希子</p>	
<p>(請願の要旨)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、全国の小中学校では一斉に臨時休業が実施され、学校の全面再開までの移行段階で「3密」を避けるためにクラスの2分の1程度の人数で授業ができる分散登校や時差登校が行われた。実際に20人程度で授業を受けた子どもたちからは「いつもより授業がよく分かった」、「手を挙げやすかった」などの声が聞かれ、教職員からは「ゆとりをもって子どもたち一人一人と丁寧に関わることができた」、保護者からは「感染から子どもを守るには20人くらいがいい」などの肯定的な声が上がったとのことである。</p> <p>鹿児島市ではこのような状況にこそならなかったものの、全国の事例から、20人程度で授業を受けられるようにすることが感染拡大を防ぐとともに豊かな学びを実現することにつながるとの認識が全国的に広がった。</p> <p>現行の40人学級では子どもたちのいのちと健康を守ることはできない。さらに、学校現場では、教職員も感染拡大防止対策を図りながら、授業時間の確保に追われている現状もあり、「子どもも教職員もくたくたになっている」、「消毒作業など過重な労働」、「感染拡大を招いてはならないという精神的な負担」など悲痛な声が上がっている。</p> <p>様々な課題を抱えた子どもが増える中、一人一人に行き届いた教育を保障するため、全国の多くの自治体が独自に少人数学級を実施しているが、国の責任による少人数学級は小学校1年生のみとなっており、各面から見直しの要求がなされているものの、8年連続で見送られている。</p> <p>全国一斉の臨時休業後、文部科学省は「学校の新しい生活様式」を公表したが、教室において「身体的距離」を確保するには20人程度で授業を受けることができるようにすることが求められており、感染拡大防止対策として教室の「3密」を避けるためには少人数学級・授業、学校規模の縮小などが必要である。そのために教職員を増やすことも不可欠である。</p> <p>コロナ禍の中で「20人学級」を展望した少人数学級を前進させることは、圧倒的多数の父母・保護者と教職員、地域住民の強い願いである。それに応じて本年7月2日に全国知事会・全国市長会・全国町村会の地方三団体は、国に対して少人数学級の実現を含む新しい時代の学びの環境整備に向けた緊急提言を行った。</p>	

教育の機会均等を保障するためには、地方に負担を押しつけることなく、国が責任をもって少人数学級の前進と教職員の定数改善を行うことが極めて重要である。

よって、貴議会におかれては、下記事項について国会及び関係行政庁に対し意見書を提出していただくよう請願する。

#### 記

1. 子どもたちのいのちと健康を守り、成長と発達を保障するため、緊急に20人程度で授業ができるようにすること。そのために教職員の増員と教室の確保を国の責任で行うこと。
2. 「20人学級」を展望し、少人数学級を実現すること。そのために国は、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律を改正し、教職員定数改善計画を策定すること。